

【行革甲子園2014】

取組市町名

松山市

所属

危機管理担当部長付

▽取組事例名

必携！！「職員危機管理ハンドブック」

▽取組期間

平成26年度～

▽取組概要

災害や危機事象発生時の配備基準や動員区分を記載した「松山市職員危機管理ハンドブック」を全職員に配布し、常時携帯を実施している。

▽取組みの背景

東日本大震災をきっかけに、防災・減災対策が進められるなか、本市においても平成23年11月に防災と危機管理業務を一元的に所管する「危機管理担当部長付」を市長部局に設置し、危機事象に対応しているが、より一層の迅速化や被害軽減が求められている。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

平時における職員の危機管理意識の向上や的確な対応能力の養成。

(具体的内容)

平成25年度

- ハンドブックの掲載内容の検討
- 松山市職員危機管理ハンドブック作成

平成26年度

- 松山市職員危機管理ハンドブック配布

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

- ・常時携帯を優先するため、掲載する内容やサイズ、携帯性を考慮する必要があった。
- ・配布が一過性のものにならないように継続性が重要である。

☆工夫した点

- ・水に強く破れにくい紙を使用し、耐久性を考慮した。
- ・年度ごとに役割業務を記入することとし、継続的な使用を可能とした。
- ・ハンドブックと併せて個人の携帯電話等へPDFファイルを送信し、常時携帯を推進した。

▽取り組みの効果

さまざまな危機事象について配備基準が明確化されているため、動員基準等を平時から確認することで、危機事象発生時のより迅速な対応が可能となるとともに、職員の危機管理意識のより一層の向上につながる。

▽住民（職員）の反応・評価

<職員>

従来の紙媒体による管理では、いざというときの対応に課題があったが、常時携帯できる名刺サイズとしたこと、また、携帯電話によってデータにて管理できる面で好評を得ている。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

今後、各課にてハンドブックの常備携帯の確認や平時から災害発生時の対応について確認する機会を持ってもらうなど、継続的な周知を行うことで、全庁的な危機意識向上の風土作りを目指すとともに、定期的な参集訓練などを行い、危機事象への対応能力を醸成する。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

より災害に強いまちづくりを推進するためには、今回作成したハンドブックの常時携帯による職員の危機管理意識の高揚や様々な危機事象に対する全庁横断的な協議・連携の促進など、ソフト面での体制整備が重要と考える。